

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成20年7月10日(2008.7.10)

【公表番号】特表2003-535144(P2003-535144A)

【公表日】平成15年11月25日(2003.11.25)

【出願番号】特願2002-501471(P2002-501471)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 35/12 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 P 7/00 (2006.01)

A 6 1 P 9/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/02 (2006.01)

C 1 2 N 5/06 (2006.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 K 38/27 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 35/12

A 6 1 K 39/395 N

A 6 1 P 7/00

A 6 1 P 9/00

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 35/02

C 1 2 N 5/00 E

A 6 1 K 37/02

A 6 1 K 37/36

【手続補正書】

【提出日】平成20年5月20日(2008.5.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ヒトにおいて造血を再生できる C D 3 4 陰性多能性末梢血細胞の数を増加させるための医薬の製造のための、成長ホルモン又はその誘導体の一つ又は成長ホルモンの放出を誘導する任意の因子の使用。

【請求項 2】 C D 3 4 陰性多能性細胞が長期間培養イニシエーティング細胞 (L T C - I C) である、請求項 1 記載の使用。

【請求項 3】 ヒトにおいて造血を再生できる C D 3 4 陰性多能性末梢血細胞の数が血液のミリリットルあたり少なくとも約 5 0 、 1 0 0 、 5 0 0 又は 1 0 0 0 細胞である、請求項 1 又は 2 記載の使用。

【請求項 4】 C D 3 4 陰性多能性細胞が白血球除去血輸血により回復する、請求項 1 ないし 3 の何れか 1 項記載の使用。

【請求項 5】 C D 3 4 陰性多能性細胞をヒトにおける移植に使用する、請求項 1 ないし 4 の何れか 1 項記載の使用。

【請求項 6】 C D 3 4 陰性多能性細胞を移植の前に保存する、請求項 4 又は 5 記載の使用。

【請求項 7】 移植が自己移植である、請求項 6 記載の使用。

【請求項 8】 移植が異種移植である、請求項 5 又は 6 記載の使用。

【請求項 9】 新生物 (neoplastic) 疾患、白血病、リンパ腫、造血不全、悪性腫瘍、先天性又は遺伝性として決定された造血異常、貧血、再生不良性貧血、好中球減少及び / 又は大理石症の治療のための、請求項 1 ないし 8 の何れか 1 項記載の使用。

【請求項 10】 リンパ腫がホジキン病である、請求項 9 記載の使用。

【請求項 11】 医薬が以下の群の化合物：造血成長因子、サイトカイン、ケモカイン、モノクローナル抗体の間から選択される一つ又は複数の化合物をさらに含む、請求項 1 ないし 10 の何れか 1 項記載の使用。

【請求項 12】 サイトカイン群が、I L - 1 , I L - 3 , I L - 6 , I L - 1 1 , インスリン様成長因子 1 (I G F - 1)、G - C S F , G M - C S F 又は S C F を含み；ケモカイン群が、M I P - 1 α , M P I F - 1 , M P I F - 2 又は E U - 2 であり；モノクローナル抗体群が抗 - V L A - 4 抗体を含む、請求項 11 記載の使用。

【請求項 13】 医薬が G - C S F をさらに含む、請求項 1 ないし 12 の何れか 1 項記載の使用。

【請求項 14】 医薬が成長ホルモン及び G - C S F を含む、請求項 1 ないし 13 の何れか 1 項記載の使用。

【請求項 15】 成長ホルモンを投与につき 10 から 500 μ g の量にて投与する、請求項 1 ないし 14 の何れか 1 項記載の使用。

【請求項 16】 成長ホルモンを投与につき約 100 μ g の量にて投与する、請求項 15 記載の使用

【請求項 17】 G - C S F を投与につき 1 から 100 μ g の量にて投与する、請求項 13 ないし 16 の何れか 1 項記載の使用。

【請求項 18】 G - C S F を投与につき約 5 から 10 μ g の量にて投与する、請求項 17 記載の使用

【請求項 19】 投与を非経口、皮下、静脈内、筋肉内、腹腔内、経皮又は経口経路により行う、請求項 1 ないし 18 の何れか 1 項記載の使用。

【請求項 20】 投与を皮下で行う、請求項 19 記載の使用。

【請求項 21】 投与を毎日又は日に 3 回する、請求項 1 ないし 20 の何れか 1 項記載の使用。

【請求項 22】 成長ホルモンの投与を日に 3 回行い、そして G - C S F の投与を毎日行う、請求項 13 ないし 21 の何れか 1 項記載の使用。

【請求項 23】 約 1 から 14 日間にわたり、白血球除去血輸血までか、インビボにて造血を再生できる循環細胞の流動又は末梢化までか、インビボにて造血を再生できる循環細胞の数の増加までか、又はグラフト化まで、投与を行う、請求項 1 ないし 22 の何れか 1 項記載の使用。

【請求項 24】 化学治療、放射線治療、骨髄障害性又は骨髄抑圧性の治療、インビボにおいて造血を再生できる細胞の移植又は骨髄移植の前又は後に投与を行う、請求項 1 ないし 23 の何れか 1 項記載の使用。

【請求項 25】 化学治療の処置の開始の約 7 日後か又は化学治療の処置の最後から約 2 日後に投与を開始する、請求項 24 記載の使用。

【請求項 26】 イフォスファミド及び / 又はビノレルビンによる化学治療の処置の後に投与を行う、請求項 25 記載の使用。

【請求項 27】 成長ホルモンがヒト成長ホルモンである、請求項 1 ないし 26 の何れか 1 項記載の使用。

【請求項 28】 成長ホルモンが組換え成長ホルモンである、請求項 1 ないし 27 の何れか 1 項記載の使用。